御前崎地区公共下水道について 今後の御前崎市政について

曽根紀久雄

問 御前崎白羽地区の下水道事業については、浜岡地区が完了した段階で着工していきたいとの市の意向で、各町内会で説明会を開きました。その後町内会長を通じ御前崎白羽地区全世帯に意向調査を行いました。8割以上の人が、応分の負担を承知しながら希望するとの結論がでました。これを受けて地区全体で下水道整備促進の陳情書を提出しました。市議会としても下水道特別委員会を設置して検討を進めています。

長期的財政もありますが、快適で住みやすいまちづくりのため、市長は下水道整備をどのように考えているか

答 御前崎白羽地区の下水道については、全世帯の83%という大勢の皆様方に要望をいただきました。直ちに整備地区の管路網や処理場の位置など基本案の作成にとりかかり、全体をひとつの処理区として、処理場建設地は白羽地内の市有地とした設計が出来ています。工事は、池新田浄化センターの増設工事完了後の平成22年度から着工し、5年後の一部供用開始を目指し、その後は財政面や投資効果等を踏まえ、徐々に施工区域を伸ばしていくことがベストと考えております。

私も、港、漁業、観光等々、海に生きる御前崎にとって下水道整備はたとえ時間がかかっても推進していかなければと、考えは変わっておりません。

問 今後の御前崎市政について伺います。

我が御前崎市は、中東遠、また県内でも注目のまちです。静岡空港、アクセス道路の開通、そして国際貿易の拠点御前崎港、スズキの生産工場など、この4年間は御前崎市にとって最も重要な年になると考えます。

市長は市長選への出馬の意思と今後の御前崎市政をどのように考えているか

答 私は3年9ヵ月、さまざまな問題と向かい合い、市民の幸せのために全力をそそいでまいりました。その結果、農業、水産業、商工業、観光振興、行政改革、教育、医療福祉の向上、防犯防災等、各分野において新たな課題が見えてきました。

この4年間で芽生えた市民協働意識を大きく花咲かせることが私に課された責務であると考え、来期も市政を担ってまいりたいと考えております。

児童生徒間のいじめ問題と命を大切と思う心を如何にして育てるかについて

岡村　勝

問 増加の一途をたどる児童生徒間のいじめ問題について、早期発見、早期対応、事後対応がキーポイントになると思いますが、教育長の考えは

答 ご指摘のとおりいじめの実態の把握は学校も保護者も見えにくい構造になっています。最近のいじめの原因となっているのが携帯電話です。教育委員会ではネットいじめやネット社会の課題に対応するために、来年度、家庭教育出前講座を開講し、携帯電話やインターネット等のネット社会の落とし穴や課題に対応していきたいと考えています。

問 現在、児童虐待、ネグレクトの数も増加傾向を示していると言わざるを得ません。行政の執行者として今後如何なる方策で対処していくつもりか

答 平成19年度は11月末現在すでに508件と増加しているのが現状です。児童虐待を防ぐには、深刻な事態になる以前に情報をつかむ事が重要であり、体制を整え早期発見に努めていくと共に、保健師や家庭相談員による相談体制や子育て支援センターの機能充実を図りたいと考えております。親子関係の修復を重視し、親への教育やサポート体制にも更に力を入れていきたいと考えております。

問 命についてかけがえの無い大切なものであるということを子供たちにどの様にして教えていったらいいかという事ですが、私は学校における動物飼育を提案します。ゲームでリセットすれば何回でも生き返れると誤解している子供に一度死ぬと二度と生き返れないんだという事を覚えてほしいと思いますが考えは

答 動植物の飼育、育成で命の教育は的を射たご指摘だと思います。本市では命を大切にする、人への思いやりの気持ちを持つなどの感情は子供たち自身が自らに自信を持つ事や誇りを持つ事などの自尊感情を育む事によって育つものだと考えています。今後も動植物の飼育も含め、生きる力の根源である「自尊感情」の心情陶冶に力を注いでいきたいと考えています。

ネグレクトとは

幼児や児童の放置（栄養不良・極端な不潔・怠慢ないし拒否による病気の発生・学校へ行かせない等）を言う。